

リハビリテーションの 最前線で活躍する 理学療法機器



スーパートラックST-2L



ミナト医科学株式会社

リハビリ機器で予防医学に貢献

数ある医用電子機器のなかでも、特に理学療法機器の開発・製造を行っているミナト医科学。扱う製品はリハビリテーション用機器が主流だ。高齢者がこれからますます増えていくなか、これらの機器は、年々需要の高まりを見せている。

高齢になると、体力が落ち、運動領域が制限されてくる。そうして筋力が低下すれば、何かの拍子に転んだり、つまづいたりしただけで、寝たきりになってしまう可能性もある。リハビリテーション機器は、そのような事故で寝たきりになってしまった人を減らすための予防医学の分野で必要とされるもの。

「要介護状態の人でも、初期段階のレベルであれば、リハビリによって健全な状態に戻せることがある。医療費の負担増が社会的な問題となるなか、寝たきりにならずにすれば医療費も安くなり、社会貢献につながるはず」と寺田英史社長は語る。

そして、同社では、創立当初に低周波治療器を手がけて以来、多数



の製品を開発してきた。代表的な商品である「エアロモニタ」は、呼吸と吸気の気流量およびガス（酸素と炭酸ガス）濃度を同時に測定し、酸素消費量等の呼吸代謝に関するデータを計測できる機器である。「オートスパイロ」は、肺内ガスや肺の容量などが測定でき、肺の病気を早期発見するための機器。そして、平成20年10月にグッドデザイン賞を受賞した「スーパートラックST-2L」は、腰痛で悩む患者さんに負担をかけずに牽引治療ができるという物理療法機器である。ほかにも、ウォーターマッサージベッドや、高齢者向けの筋力トレーニングマシン等、扱う商品は様々だ。

産学協同開発や アフターサービスで 最新のニーズをキャッチ

商品が様々である分、開発のきつかけも実に様々。「湯治のように、古くから効果が出ている民間療法のメカニズムを解明して機器にすることもあります」と寺田社長。自社内での発案のみならず、近隣の大学と産学協同研究という形で取り組んでいるものも多い。また、大学病院から、「こんな治療をしたいのだがどうだろうか」といった相談を受けることも多々あるという。

そうして開発された機器は、基本的に医師等専門家の指導のもとで使用してもらうため、顧客はリハビリテーションを扱う整形外科の開業医院が多い。「指を曲げたら痛い」「肩が上がらない」と訴えてくる人

の症状を緩和するために、理学療法機器が必要になってくるのだ。

また、理学療法機器を用いた治療は、薬品を用いないため、副作用もない。それがニーズを大きくするひとつの要因でもある。

さらに、製品の特性上、納品後のアフターケアも必須のものとして扱い、調整から修理までを実施。自社の製品に責任を持つとともに、リハビリ医療の現場からの新たなニーズを汲み上げ、次の開発に活かしているのだ。

ミナト医科学株式会社

住所 〒532-0025
大阪府大阪市淀川区新北野3-13-11
設立 昭和32年5月
資本金 9,960万円
従業員 374名（平成21年1月現在）
TEL 06-6303-7161
FAX 06-6303-9762

Company Profile



寺田英史さん
代表取締役社長

主な事業内容

医用電子機器
の開発・製造・
販売 等

ISO 9001

関西
19

<http://www.minato-med.co.jp/>